

子供を通して学ぶ日々

竹内 真美

県立西宮病院産科助産婦(兵庫県)

この頃、児童虐待や家庭内暴力のニュースをよく聞かすが、なぜ大切な子を傷つけてしまうのか？信じられない。

陣痛が来て、不安と期待でドキドキしながら過ごす分娩第一期。やっといきめるようになってわが子を産み出す。待ちに待ったわが子との対面。その瞬間の感激は忘れられない。

大切な大切な子供。私にも子供が1人いる。

空 手

わが家では母親である私が仕事を持っているため、子供と一緒に過ごす時間がなかなかとれない。私は考えた、“子供と何か共有できることはないかなあ？”と。小3の息子は、親戚の子と一緒に空手を習っている。その母親と私は、7月から子供と一緒に空手を習おうと決心した。といっても、決心するまでにはかなり時間がかかった。彼らはもう以前から入門しており「緑帯」。今までほとんど運動らしきものをしたことのない30歳も半ばのお母さんたちが、いったいどこまで続けられるのやら……。

不安と緊張の中、初日の練習が始まった。基本稽古では体は動かないし、動き方は覚えられない。ほかの子どもたちや、お母さん方は興味津々で私たちを見ている。ああ、情けないやら、恥ずかしいやら。

以前子どもたちが練習しているのを見ている時は、偉そうに「手が上がっていない」とか「足をもっと高く」などといつも言っていた。でも実際やってみると「できるもんじゃない！」と痛感した。

そんな時「はじめだからできなくてもいいよ。ばくもそうだったよ。練習していたら、できるようになるからがんばってね」と優しい声をかけてくれたわが子。いつのまにか優しく、たくましくなってきたなあと、暖かい気持ちになった。「誉めて育てるってこういうことなのね。いつもガミガミ言ってごめんね」と心の中で謝った。しかし、そんな瞬間はつかの間、私は筋肉痛でしばらく苦しんだ。

PTA

今年は、PTAの役員に任命された。しかし私は、PTAって何をしているところなのか全く知らなかった。何か学校であればPTAの人が集まって話し合うという、極めて一般的な認識しかなかった。

そして1学期が始まり、PTA役員主催の先生と子供、親の親睦会を行なった。クイズやじゃんけんゲーム、大玉ころがしなどをしたのだが、なんと私はクイズで司会をすることになってしまった。ドキドキしている私など皆気にもせず、子供たちは「早く問題出してー」と近づいて来る。

なんて目がキラキラしているんだろう。子供たちから、すごいパワーを与えられている感覚だった。先生ってすごい職業だなあとと思っている時、ふとわが子が目に入ってきた。「あれ、おまえのお母さんだろ」と友達に言われ照れくさそうにしながらも、うれしそうにニコニコしている。母親がこういうことに参加することも必要なのだとつくづく感じた。何とか司会もでき、とても楽しい



会で、大盛況に終わった。子供のためにも自分のためにも、できるだけ PTA 活動にも参加していきたいと思った。

自治会

今年は何かと忙しく、自治会の役員も回ってきた。この自治会活動も私にとっては初めての体験である。役員になって初めて、自分たちが集団の中で生活していると感じた。些細なことだが、回覧版を早く回さなければ迷惑だとか、草むしりはみんなで協力して行なうものだとか、分かっているところもあった。しかし役員になると、本当に迷惑だと思ってしまう。立場が変わって知ることってたくさんあるなあと思える。

役員として近所の家を回っている時、子供と一緒にいると、近所の皆さんが子供にもいろいろと声をかけてくれる。こうして子供も地域の中の一員として育まれていくのだと思った。

アゲハチョウ

家の庭に山椒の木がある。そこにたくさんのアゲハチョウの幼虫がいた。そこで息子とアゲハチョウの観察をすることにした。

幼虫が鳥や蜂に食べられているところを何度も見た。その中で生き残った幼虫たちは日増しに大きくなり、5匹が蛹になったところを見ることができた。しかし蛹のままチョウになれなかったものの、チョウにはなれたが羽根が折れてしまって飛べなかったものがいて、結局元気にチョウとして

飛び立ったのはたったの1匹だけ。「元気に飛んで行け!」。息子と飛び立ったチョウを見送った。

この観察を通して、息子と一緒に生命の誕生のすばらしさや自然の厳しさを目の当たりにした。とても感動する出来事だった。

子供を通して学ぶ

「私」という1人の人間を考えると、社会の中では病院職員、看護婦、助産婦の中の1人。地域の中では、自治会の会員、そして、1人の子供の親である。そこにはたくさんの人との出会いやつながり・ネットワークがあり、守られ、支えられていると実感する。

子供と一緒に過ごす機会を持つことで、私にはいま、学ぶことがたくさんある。たくさんの刺激を受け、感じるができる。それはとても幸せなことだと思う。たくさんのかたちを吸収し、人間的にもっと成長していきたい。これからも仕事とともに、PTAに自治会にがんばりたいと思う。もちろん、筋肉痛の体にムチ打ちながら、体力の続く限り空手もがんばるぞ!

この「りれー随筆」を回して下さった西森さんは、私が看護協会の広報出版委員をしていた時に出会った、とてもすてきな人です。その西森さんからこのリレーが私のところに回ってくるなんて、考えてもみなかったので大変な驚きでした。何を書いていいのかわからないまま、今の思いを書いてみました。

次は、助産婦学校で大変お世話になった西幸江先生にバトンタッチします。(たけうち・まみ)